

新しくされた人シリーズ③「聖なる神様との出会い」

イザヤ書 6章1～8節

主題：預言者イザヤの見た幻

主意：「聖なる」神様と出会い、罪の赦しをいただき、神様に応答していく。

中心聖句：イザヤ書 6章3節

序論：

- ・新しくされた人シリーズの第3回目は、「預言者イザヤ」と神様との出会い。
- ・神様とは一体どのようなお方なのか、イザヤはどのように新しくされたのか、聖書は何を語るのか。

本論：

I、「聖なる」神様（1～4節）

①「ウジヤ王が死んだ年に」

→「ウジヤ王」とは、「南ユダ王国」の王様。16歳で王様となり、52年間、王国を治めた人物。

（歴代誌 第二 26章「旧約聖書794ページ」）

→旧約聖書の特徴の一つとして、王様の名前を使って「〇〇王の治世の第〇〇年のことである。」という書き方が多く見られる。では何故、「ウジヤ王が死んだ年に」という書き出しなのか。

②「聖なる、聖なる、聖なる」

→「聖なる」という言葉が3回繰り返し書かれている。2回ではなく、3回繰り返すことによって、単に「強調」しているだけではなく、神様が他の何にも優って「聖なる」お方であることが分かる。

→「聖なる」とは、「分離」「分ける」という意味。「聖なるお方」とは、「神様以外の全てのものから分離、分けられた唯一無二の存在。全く汚れのないお方、本来、罪人である私たち人間では近寄ること（交わること）のできないようなお方。」

II、罪の赦し（5節）

①罪の自覚

→「唇」とは、「(口から出る)言葉」という意味。「唇の汚れた者」とは、「(口から出る)言葉が汚れた者」つまり、「心の内も汚れている」という意味。

→「聖なる」神様との出会いによって、自分の罪深さを示され、認めざるを得ない。

III、「聖なる」神様への応答（6～8節）

①「セラフィムのひとりが・・・」

→「燃えさかる炭」とは、「祭壇にささげられた献げ物」を表している。

②罪の赦し

→「聖なる」神様と出会ったことで、心の内にある汚れ（罪深さ）を示され、それを認めた時、神様の一方的な恵み（イエス・キリストの十字架の死）によって、罪の赦しが与えられる。

③罪赦されたイザヤの応答

→「だれが、われわれのために行くだろうか。」と問われる神様に応答する。

結論：

- ・私たちの信じている神様は、「聖なる」お方である。
- ・「聖なる」神様と出会う時、自分の罪深さを示され、それを認めるなら、罪の赦しに預かれる。
- ・罪の赦しをいただき、新しくされた人は、神様に従う応答をしていく。